

第5節 その他構内の立会調査

1 湯田宿舎公共下水道接続及び排水施設改修工事に伴う立会調査

調査地区 山口市湯田温泉6丁目8-29(山口大学湯田温泉団地構内)

調査期間 平成7年1月13日・2月2日・2月9日

調査面積 約44㎡

調査結果 山口市による公共下水道整備に伴い、湯田宿舎下水施設もこれへの接続と併せて浄化槽、配管など既設下水道設備の改修が計画された。調査は、公共下水道接続用の大型枡が設置されるA地点、敷地の西端にあたるB地点、A棟北側の配管埋設部分で敷地の北辺部分にあたるB地点からC地点に至る部分で実施した。

A地点では、現地表下約62cmまでが黄赤褐色土の造成土、約62～94cmが水田耕土または床土と考えられる暗灰褐色砂質土で、これ以下が地山層と考えられる。約94～114cmが暗青灰砂質土、約114～135cmが暗灰褐色粘質砂、約135～167cmが暗灰青色粗砂でこの層の中位には黒褐色粘質土層が混在している。約167～178cmは暗灰色粘質砂、以下掘削深度の233cmまでは青灰色粘土である。遺構・遺物は検出しなかった。B・C地点の状況はほぼ均質で、現地表下約60cmまでが黄褐色土の造成土、約61～69cmが暗黄緑色土の漸移層、約69～86cmが暗灰色粘質土の水田耕土、約86～107cmが暗青灰色砂質粘土の水田床土、それ以下は暗灰色粘土の地山となる。地山は安定性が高く、B・C地点間で広範に認められたことから遺跡の立地も可能であるため、引き続き注意が必要である。



Fig.129 調査区位置図

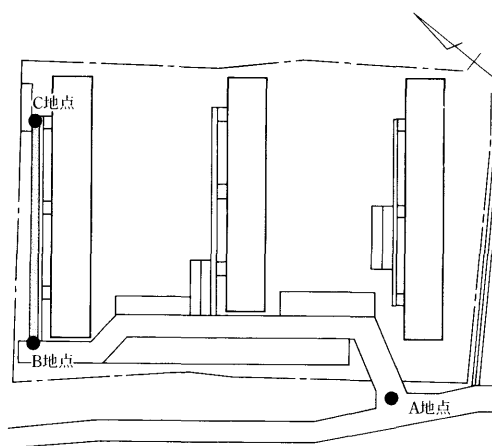


Fig.130 立会地点詳細位置図